

“WE”のエンジョイライフ

enjoy.04： チェコからTV取材班来岡



押花作品「春はここから」

プラハの春やピロード革命の舞台となったヴァーツラフ広場に集まった民衆に向かって民主化初代大統領ハーベル氏はビルバルコニーから演説をしました。私たちのWE展はこの有名なビルをお借りしたわけです。大統領の弟の奥様が生け花や押し花を楽しまれ、その後も大変お世話になり沢山の交流をさせていただきました。イベントにはいつも日本国大使や関係者も多く見られていました。チェコでのWEメンバーDさんの活躍は素晴らしいもので、その後はTV番組制作の話となりました。第二次世界大戦後、米国が日本を民主化へと導くために山の奥地まで映画を見せたと言います。民主国家の日本をチェコ国民に紹介したいと言うことでTV関係者5名が来岡。長岡を中心に柏崎原発や、黒部ダム、市民の生活、教育現場など多岐にわたっての取材に同行。長岡以外でも全国各地で日本を紹介、伝統工芸から近代的なハイテク産業まで大変幅広いものでした。

このTV番組はチェコ国内で6回分の教育番組として放映され最高の評価を得た為、その後ヨーロッパ7カ国に放映。私は長岡を拠点に撮影場所の依頼や案内をただけでしたが、制作スタッフの名前にMIWAKO KOBAYASHIも入っており、ちょっと気恥



小林美和子

「フラワーサロンWE」主宰

長岡市表町在住

押し花やフラワーアレンジメントの他、花のクラフトとして、ネイチャープリン、レカンフラワー教室主宰。

ずかしいような嬉しいような、まあ良い経験をさせていただきました。ここで思い出したのは、やはりWEメンバーの一人南米に住むしさんご夫妻。ご主人様は今大学の学長さんとのこと。Lさんご夫婦は何回か我が家にいらっしゃいましたが、日本はまだ「ちょん髷」を結った世の中だと思っていて、来日後そうではない事に気づき、余りの認識の相違に恥ずかしく誰にも話せなかったと帰国直前に話して下さいました。日本人のアピールの仕方を考えさせられた一駒でした。

今回のTV番組「TODAY S JAPAN」は日本人の私から見ても、偏りが無く隈なく紹介しており素晴らしい作品だと思いました。身近な収録現場を少し紹介しますと、例えばお布団文化はちょっと人に頼めなかったので我が家で撮影。押し入れから布団を出しベッルームが完成する様子。また台所の床下収納の収録有無について、5人のスタッフが激論。外では田んぼ道に三脚を立て夕日をバックに新幹線を撮ると言う設定。タイミングが合わず何回も何回も新幹線を見送る撮影班。このような努力を重ねて出来上がった番組の録画テープは、私にとっても大切な宝物となりました。



撮影を終えてくつろぐ取材班